

# 防災だより

その19

防災安全課

## 台風に備えて 早めの対応を

### 台風とは

台風は、熱帯の海の上で生まれた低気圧です。その熱帯低気圧のうち、最大風速（10分間の平均風速の最大値）がおよそ秒速17メートル以上のものを「台風」と呼びます。

台風は、暖かい海面から供給された水蒸気が凝結して雲粒になるときに放出される熱をエネルギーとして発達します。しかし、移動する際に海面や地上との摩擦により絶えずエネルギーを失っており、エネルギーの供給がなくなれば2〜3日で消滅してしまいます。しかし近年、温暖化による海水温の高温化により、勢力を維持したまま日本に接近、上陸しています。

### 台風による影響

接近した台風は、強風や大雨をもたらします。また、雨が降りやすい状況にある（梅雨前線や秋雨前線がある）場合は、台風が遠い距離にあっても台風からの暖かく湿った空気の流れ込みにより大雨になることがあります。台風は、強風による家屋の倒壊や樹木の倒木など、豪雨による土砂崩れや浸水など大きな災害をもたらしますので、注意が必要です。

### 台風に備えて

台風の進路や接近日時の情報、気象台などが随時発表しています。テレビやラジオ、インターネットなどでこまめに確認しましょう。屋外の備えとして窓や雨戸はしっかりとカギをかけ、必要に応じて補強をしましょう。風で飛ばされそうな物は飛ばされないように固定したり、屋内へ移動したりしましょう。台風が接近する前に必ず行ってください。屋内の備えとして飛来物

に備えてカーテン、ブラインドをおろし、緊急時に備えて、事前に情報の入手方法や家族との連絡手段、避難経路や避難場所などを確認し、貴重品・非常用食品・飲料水・懐中電灯・ラジオなど避難用品は一つにまとめておきましょう。市から避難準備情報や避難勧告があったら、すぐに動けるように準備して、すばやく避難してください（暴風雨時の避難は大変危険ですので、気象状況に応じて早めに発令される場合があります）。また、避難情報が出されていない場合も、危険を感じたら、自主的に避難するようにしてください。



## 台風の豆知識

### ①台風の強さ

台風の強さは中心付近の主に最大風速で表します。

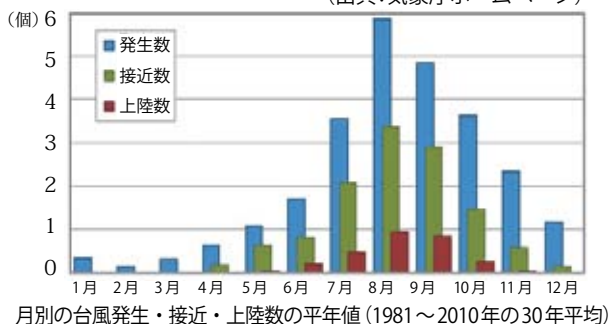
### ②台風の大きさ

台風の規模（大きさ）は、暴風域の広さで表します。

強い台風	風速33m/s(64ノット)以上～44m/s(85ノット)未満
非常に強い台風	風速44m/s(85ノット)以上～54m/s(105ノット)未満
猛烈な台風	風速54m/s(105ノット)以上
大きい台風	風速15m/s以上の強風域が半径500km～800km未満
超大型の台風 (非常に大きい台風)	風速15m/s以上の強風域が半径800km以上

### ③台風の発生数、接近上陸数

30年間（1981～2010年）の平均では、年間で約26個の台風が発生し、約11個の台風が日本から300km以内に接近し、約3個が日本に上陸しています。発生・接近・上陸ともに、7月から10月にかけて最も多くなります。（出典：気象庁ホームページ）



### ④過去日本に上陸時の中心気圧が低い台風

順位	台風番号	上陸時気圧(hPa)	上陸日時	上陸場所※1
1	6118 ※2	925	1961年9月16日 午前9時過ぎ	高知県 室戸岬の西
2	5915 ※3	929	1959年9月26日 午後6時ごろ	和歌山県 潮岬の西
3	9313	930	1993年9月3日 午後4時前	鹿児島県 薩摩半島南部
4	5115	935	1993年9月3日 午後4時前	鹿児島県 串木野市付近

※1：当時の市町村名などで示す  
※2：第二室戸台風 ※3：伊勢湾台風  
参考記録（統計開始以前のため）  
室戸台風 911.6hPa 1934年9月21日（室戸岬における観測値）  
枕崎台風 916.1hPa 1945年9月17日（枕崎における観測値）